

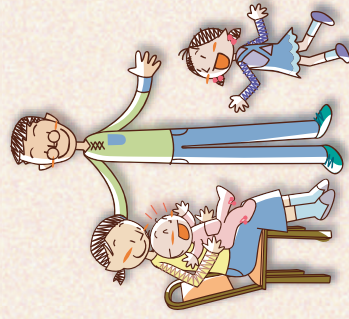
3 瑞浪市の子ども・子育てを取り巻く現状・課題

- 妊婦が安心して妊娠・出産に臨み、赤ちゃんを健やかに育てていくことができるよう、各種健診や訪問指導、相談等の実施による、子どもと親の健康の確保と増進に向けた体制のさらなる充実が必要となっています。
- 瑞浪市の就学前児童数は、減少傾向で推移しています。少子化の進行により、家庭や地域で他の子どもと関わる機会が減少しており、教育・保育施設における集団教育・保育の持つ意義はますます高まっています。集団中での学びの機会を確保し、すべての子どもが等しく質の高い教育・保育を受けられる環境整備が必要です。
- 働く母親が増えていく中で、子育てに対する不安や負担を一人で抱え込むことがないよう、適切な助言や公的なサービスを受け、気軽に相談できる場を提供することにより必要な世帯に支援が行き届き、身近な地域での様々な世代の人々が親子を応援できる環境にしていくことが必要です。
- 近年、幼稚園・保育所・学校において発達障害など特別な配慮を要する児童が増加の傾向にあります。従来の3障害(身体・知的・精神)に加え、発達障害(自閉症・LD・ADHD・アスペルガー症候群等)を含めた支援のあり方が課題となっています。

4 瑞浪市の計画がめざすもの

瑞浪市の子ども・子育てを取り巻く現状・課題を受け、瑞浪市子ども・子育て会議等の市民の意見を踏まえ、子ども、そして親の誰もが笑顔が満ちることを願い、『みんなで守り、みんなで育むみんなの笑顔が満ちる子育て』を基本理念として掲げました。

この基本理念を実現するための、基本的な視点と、それぞれの施策の目標となる基本目標を設定しました。



みんなで守り、みんなで育む みんなの笑顔が満ちる子育て

基本的な視点

- 子どもたちの幸せな未来のために
- 切れ目のない支援
- 地域社会全体による支援

基本目標

- 1 母子の健康の確保及び増進
- 2 心豊かにたくましく生きる力の育成
- 3 助け合う子育てを支え合う親育ち安心できるまちづくり
- 4 個々の家庭の特性に応じたきめ細かな支援

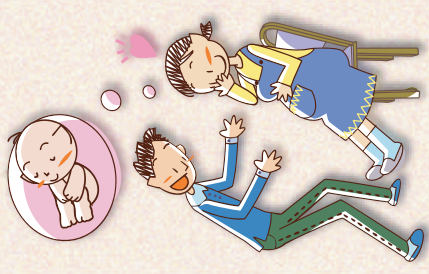
5 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策

(1) 量の見込みについて

教育・保育、地域子ども・子育て支援事業は、下記のとおり分類され、事業によって対象家庭や対象年齢が様々です。アンケート調査に基づき、それぞれの事業別に「量の見込み(ニーズ量)」の推計を行いました。

【 教育・保育の量の見込みを算出する項目 】

対象年齢	認定区分	対象家庭	対象事業
3～5歳	1号認定	専業主婦(夫)家庭 短時間(64時間未満)就労家庭	共働き家庭 幼稚園
	2号認定	共働き又はひとり親家庭 が強い家庭 ひとり親家庭 共働き家庭	
	3号認定	ひとり親家庭 共働き家庭	認定こども園 保育所
0～2歳	3号認定	ひとり親家庭 共働き家庭	認定こども園 保育所 地域型保育事業



(2) 教育・保育の量の見込みと確保方策

瑞浪市では幼稚園により幼保一体化を推進しており、現在の利用定員で保育ニーズと幼稚園ニーズを確保できる見込みです。

0歳～2歳においては、母親の就労状況等で保育ニーズが発生する可能性があることから、確保に当たっては、3歳児への円滑な連携を確保しつつ、ニーズに応じた利用定員を設定し確保します。今後も、市全体の需要と供給のバランスをみながら適正な運用ができるようにしていきます。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
3歳以上で教育を希望 (1号認定)※					
ニーズ量	387人	395人	385人	381人	365人
提供量	500人	500人	500人	500人	500人
3歳以上で保育が必要 (2号認定)					
ニーズ量	435人	446人	432人	427人	406人
提供量	616人	616人	616人	616人	616人
0歳から2歳で保育が必要 (3号認定)					
ニーズ量	223人	213人	207人	205人	202人
提供量	234人	234人	234人	234人	234人

※ 3歳以上で教育を希望(1号認定)には、アンケート調査において、2号相当で教育希望が強い方が含まれます。